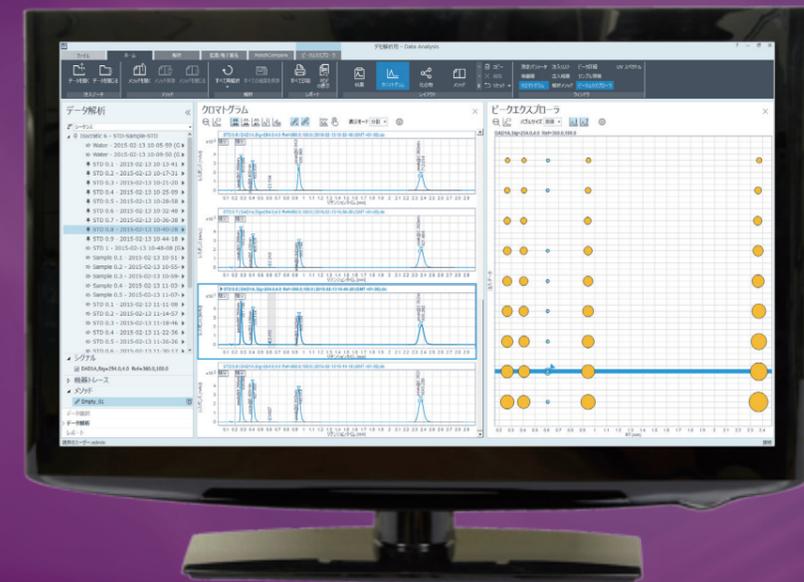


旧 ChemStation と OpenLab CDS 2 との比較

項目	旧 ChemStation	OpenLab CDS 2
ユーザーインターフェース	メニューやボタンがたくさんあり、何の機能があるのか分かりづらい。	リボンメニューとポップアップメニューで操作一新。分かりやすく、操作の手数が少ない画面。
起動と解析の動作速度	遅い。	マルチ画面を新採用し、不要な画面展開を削減。ボトルネックになっていた旧式マクロを排除。再解析速度は世界一。
解析操作	手数が多し。	ワンクリックでのデータ呼び出しや解析画面のレイアウトの自由設定を導入し、見やすく、手数が少ない解析操作を実現。ピークエクスプローラでクロマトグラムの差異を一瞬で表示。
ピークの積分	思い通りに積分することが難しい。	マニュアル積分により操作の手数が大幅削減。どんなに小さなピークでも思いのままに積分可能。
レポート編集	Bバージョンのレポートは、ユーザーは編集不可。	ユーザーが容易に自由に編集できる、インテリジェントレポート機能を標準搭載。
データインテグリティ対応	データが消せる、ログが分かりづらい、データインテグリティ対応に難あり。	Workstation Plus では、標準でデータベースを搭載。データ消去・改ざんの課題を解決。監査証跡の簡単なデータレビュー操作を実現。
他社装置コントロール	不可。	島津、Waters など他社製クロマトグラフのコントロールが可能。

# OpenLab CDS 2 による ピークエクスプローラ



[www.agilent.co.jp/chem/openlab](http://www.agilent.co.jp/chem/openlab)

カスタムコンタクトセンタ  
0120-477-111  
email\_japan@agilent.com

本資料掲載の製品は、すべて研究用です。本資料に記載の情報、説明、製品仕様等は予告なしに変更されることがあります。アジレントは、本文書に誤りが発見された場合、また、本文書の使用により付随的または間接的に生じる損害について一切免責とさせていただきます。

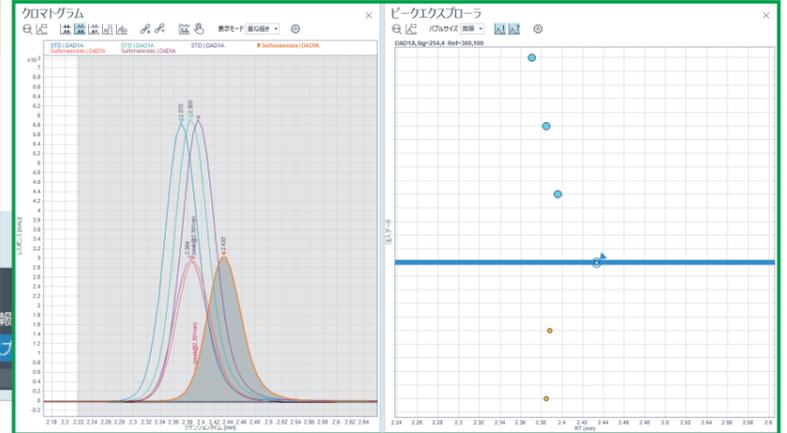
アジレント・テクノロジー株式会社  
© Agilent Technologies, Inc. 2018  
Published in Japan, September 30, 2018  
5991-8728JAJP

# 未知ピークの検出、リテンションタイムのずれが一目瞭然

ピークエクスペローラとは、下図の画面下にあるバブルチャートのことです。横軸がリテンションタイム、縦軸が読み込んでいる注入データになり、ピークが出現している箇所を丸で表現しています。丸の大きさはピーク面積や高さなどを表しているため、特定の化合物がどのサンプルの多く含まれているかが可視化されてわかりやすくなります。

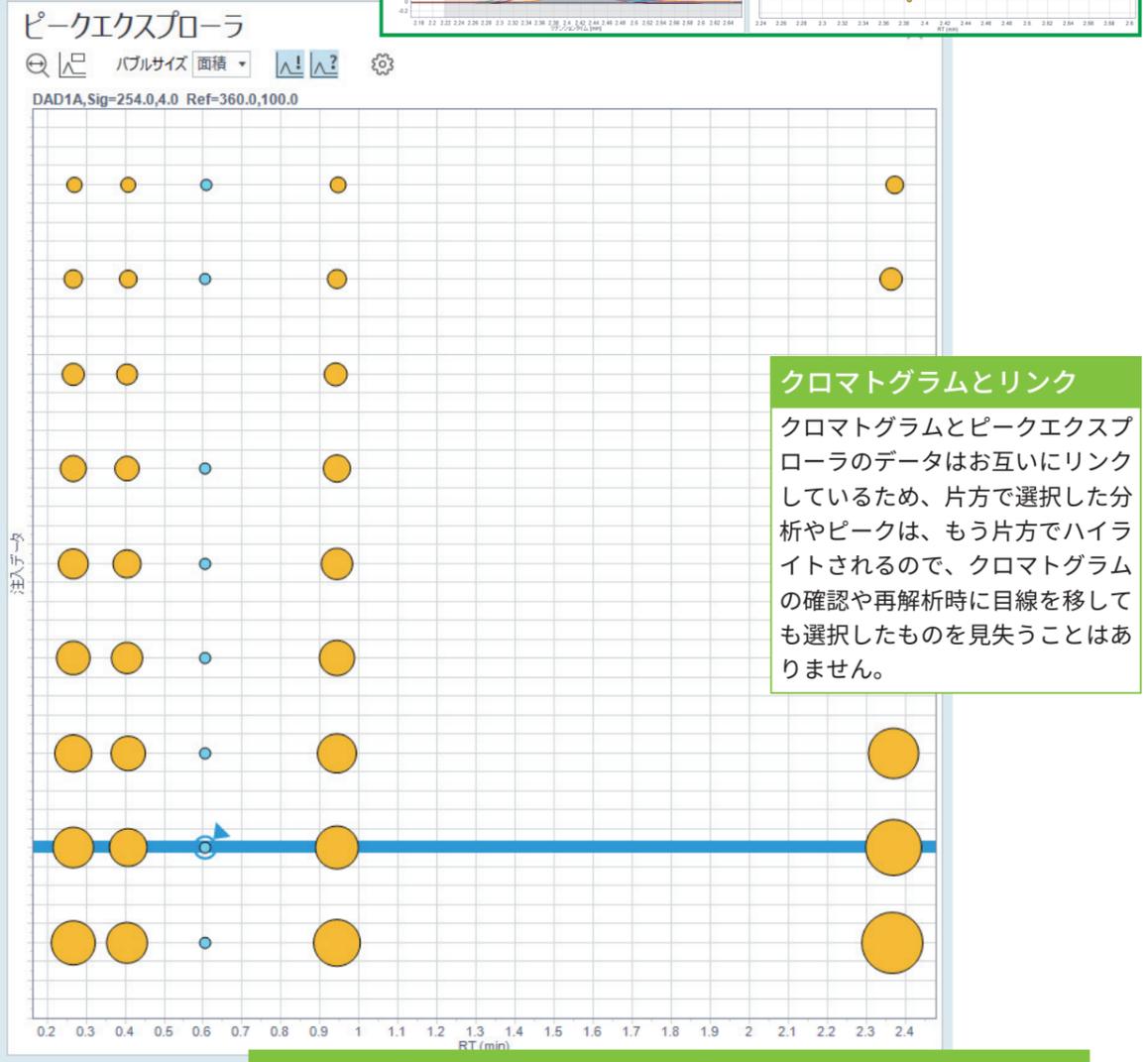
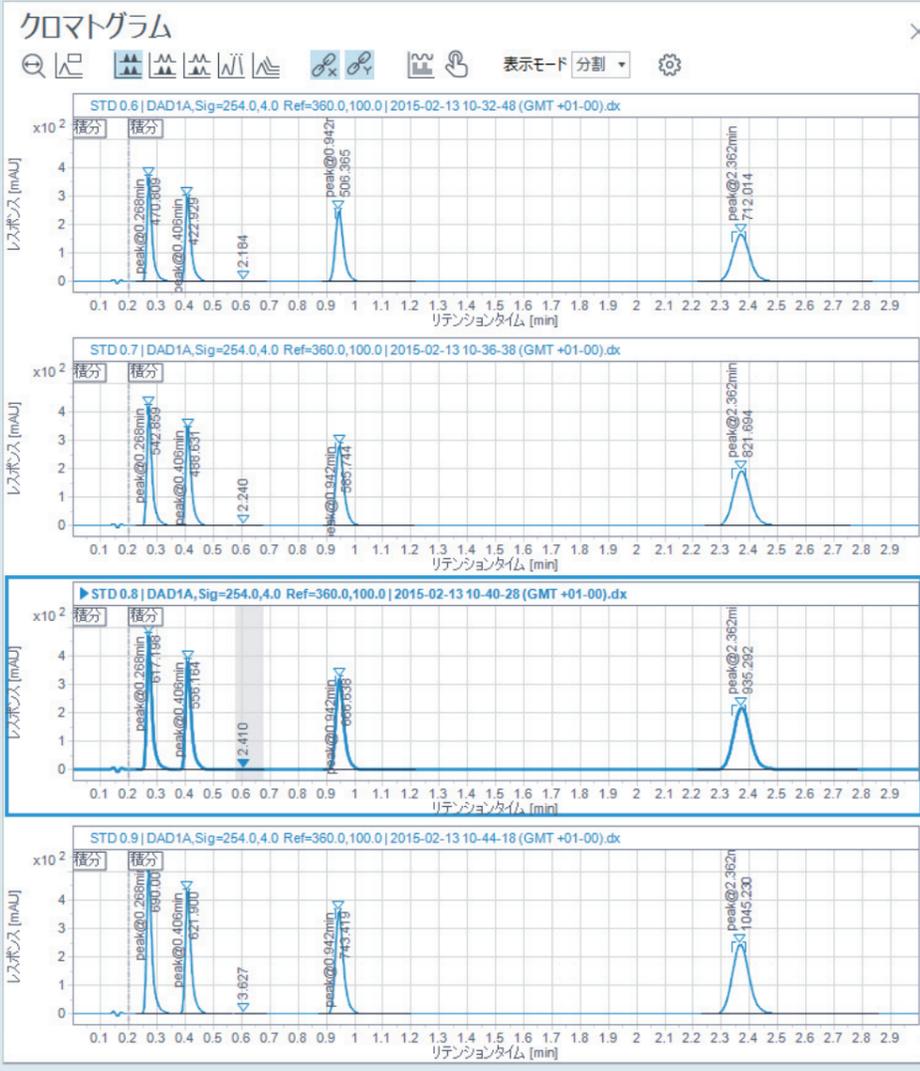
## リテンションタイムの傾向を可視化

クロマトグラムの重ね描きでは分かりづらいリテンションタイムの傾向も、ピークエクスペローラなら図で表現できるので簡単に把握することができます。例えば、カラムの劣化やメソッド開発時のメソッドの堅牢性の評価を数値だけではなく図で可視化することができるのと同時に、グラジエントや昇温条件を検討する上で参考にできます。



ソフトウェアのメニューバーとツールバー。メニューには「データを開く」「メソッドを開く」などあり、ツールバーには「クロマトグラム」「化合物」などのアイコンがある。

「データ解析」パネルのスクリーンショット。左側に「シーケンス」リストがあり、「Isocratic 6 - STD-Sample-STD」が展開されている。右側に「データ解析」の検索条件が設定されている。



「データ解析」パネルのスクリーンショット。左側に「データ解析」の検索条件が設定されている。右側に「データ解析」の検索結果が表示されている。

**複数の連続分析やシングルランのデータも同時比較が可能**  
異なる連続分析やシングルランに含まれているクロマトグラムも同じ画面内に表示できるため、過去の分析結果との比較や、ある化合物の経時変化（ピーク面積やリテンションタイムなど）も簡単に検知できます。

**クロマトグラムとリンク**  
クロマトグラムとピークエクスペローラのデータはお互いにリンクしているため、片方で選択した分析やピークは、もう片方でハイライトされるので、クロマトグラムの確認や再解析時に目線も移しても選択したものを失うことはありません。

**レポートの印字前にピーク情報を確認可能**  
同定済みのピークは黄色で、未同定のピークは青色で表現されるため、一目で未知ピークの存在がわかります。他にも、濃度差の大きな化合物の分析では、低濃度から高濃度まですべてのピークが積分されているのか、また同定されているのかをレポートに印字する前に確認することができます。